

わたしのクラスの夏祭り

【高学年 2 - 3】

- イメージマップを活用した指導 -

- (1) **主題名** 男女仲よく〔2 - 3〕
 (2) **ねらい** 様々な行事の中で，お互いに信頼しあい，男女仲よく協力し，助け合おうとする気持ちを育てる。
 (3) **資料名** 「わたしのクラスの夏祭り」
 (4) **授業の展開例**

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 「仲間」ということについて考えてみる。	「仲間」という言葉から，どんなことを思い浮かべますか。 ・クラスの友だち ・友情	「仲間」と書いたカードを見せ，そこからイメージマップを作り，いろいろな言葉を連想する。
展 開	2 資料を読み，わたしの気持ちについて話し合う。 3 発表が終わったときのわたしの気持ちを考える。 4 これまでの自分たちの生活を振り返る。	わたしは，なぜすぐに立候補しなかったのでしょうか。 ・だれも手をあげないから。 ・友だちに何か言われるのが嫌だから。 ・迷っていたから。 「しいん」となったときに，わたしはどんなことを考えたでしょう。 ・大好きなダンスがしたい。 ・からかわれるのは嫌だけど，わたしは，男子とも仲よく何かをしてみたい。 ダンスを見てもらい，拍手をもらったわたしはどんな気持ちでしょう。 ・男子と仲よく協力して，一つのものを作り上げることができた。 男女が協力し，やりとげたことがありますか。 ・総合的な学習の調べ学習で協力し，発表した。 ・係活動を分担しているが，お互いに声をかけあって協力している。	なかなか手があげられなかった主人公の気持ちを考えさせ，クラスが抱えている問題に気付かせる。 先生の言葉を掲示し，主人公も他の子も本当は，クラスでまとまる必要があることを感じていることをつかませる。 これまでとは違ったクラスの雰囲気を実感し，充実感を覚えている主人公に共感させる。 異性とのかかわりについて振り返らせることにより，仲よく助け合うことの大切さを自覚させる。
終 末	5 「仲間」について教師の話を聞く。	・男女が協力し合うことが大切なんだな。	異性との信頼や友情は，生きる上で，価値のあるものであることを押さえる。

わたしのクラスの夏祭り

毎年、わたしたちの学校では、地域の夏祭りに参加するため、七月から和太鼓と歌の練習をすることになっている。とくに歌は、各クラスで替え歌をつくり、ダンスを踊るため大変盛り上がる。

わたしのクラスでも、六月の終わりに、誰がダンスを踊るか決めることになった。まず三人の男子が立候補した。しかし、その後がなかなか決まらない。

「もう少し、増やしたいね。」

先生がみんなの顔を見渡しながら、声をかけられた。わたしはダンスが大好きである。でも、男子しか立候補していないのでなかなか手があげられない。わたしは、どうしようかと、先生の顔を見ながらもしもじしていた。

実は、わたしのクラスは、五年生の時から男女の仲がよくなり、ちよつと男子と話をしただけでもかげでこそ言われ、いやな気持ちになることが多い。わたしは、こういう雰囲気がいやでたまらなかつた。

「これをきっかけに、もつとクラスがまとまるといいな。」

先生がまた声をかけられた。いっしゅん教室がしいんとした。

しばらくして、わたしは、思いきつて手をあげた。すると、数人の女子もわたしにつられるように手をあげ、結局、男女合わせて十一人になった。

替え歌も決まり、放課後、十一人でダンスの振り付けを考えることになった。今まで、こんなふうにな男女が残って、自主的に相談などしたことがあまりなかつたので、最初不安だったが、まこと君とゆうじ君が積極的に声を出し、結構楽しく、振り付けを考えることができた。しかし、肩を組んだり手をつないだりする場面になると、女子が照れて進まない。そんなとき、まこと君は、ちよつとふざけ気味に、

「はいはい、ぼくたちじゃあ物足りないだろうけど、しっかり肩を組んで。」

などと言いながら、みんなの気持ちをほぐしてくれた。でもそんなまこと君も、以前は男子の先頭になって、女子と仲よくする男子をからかっていた子である。しかし、このダンスは最初から積極的で、みんなを引っ張り、盛り上げてくれた。

放課後の練習を繰り返すうちに、だんだん十一人の気持ちがそろい始めた。

そこで、クラスのみんなに見てもらうことにした。後でからかわれたらどうしようかという不安もあったがとにかく踊った。終わつた後、まず、先生がとても大きな拍手をしてくれ、ほとんど同時に、クラス中から拍手がわいた。

わたしは、一緒に踊った友だちと、顔を見合わせにっこりとした。

このことをきっかけに、クラスの雰囲気が少しずつ変わりはじめ、休み時間や、放課後男子と遊んだり、勉強を教え合ったりする姿が見られるようになってきた。

今、夏休みである。わたしは、昨年と違い、二学期になってクラスのみんなど会えるのが楽しみで仕方がない。

活用に生かすための実践報告

「わたしのクラスの夏祭り」

課題を見つけ追究する学習へ発展させる。

1 主題の設定

・友だちとふれあう時間や場が限られている最近の子どもたちは、お互いが十分に知り合うことなく、何となく気が合うから友だちでいるといった関係が続けることが多い。まして、男女間となると高学年ではなかなか友情を育てにくい。いろいろなことを協力してつくり上げていく中で、お互いが理解し合い、信頼し合いながら友情を深めることの大切さを自覚させたい。本資料は、男子と女子がなかなか協力できなくて、クラスの雰囲気を壊しそうな時期にするとよい。

2 指導過程の工夫

・「仲間」という言葉から連想する言葉をたくさん書かせ（イメージマップづくり）、資料に入ると後の発言がふくらみやすい。

・信頼・友情、男女の協力に関する内容を重点的に考えた場合、2・3時間を配当し、他の教育活動と関連させた指導を考えることもできる。

（重点的な指導例）

第1次 道徳

日記の中から日常生活で起こっている友だちとの問題を提示し、問いをもたせる。問いに対する自分の考えを出し合い、かけがえのない友だちを大切にすることについて考えさせる。

第2次 道徳（本時）

資料を通して、男女の友情について考えさせ、お互いを認め合う中で信頼を育て、友情を育てていくことのすばらしさに焦点を当てた指導を行う。

第3次 学級活動

自分の友だちを見る目がどのように変わってきたかをまとめる。また、友だちについてもっと知りたい、考えを深めたいと思うことを出させ、自らの

3 発問の工夫

・中心的な発問では子どもたちが現在抱えている悩みや葛藤が十分引き出せるように、また、男女が協力することの大切さを自分自身の問題として考えさせる。

・生活を振り返る時間では、「信頼し合うとはお互いがどんな心をもつことか」等の補助発問も入れると、今の自分のクラスの様子を振り返りながら、一層考えが深まるかもしれない。

・終末の教師の話では、導入で示した「仲間」のカードを使いながら、学生の頃から今も続く男女の友情関係を語り、それが心に充実感をもたらしていること等について語った。

4 児童の反応（授業後の感想）

・自分たちも男女がなかなか協力できないので面白くなかった。今日学習したことをもとにし、これからは、お互いのよいところを認め合って協力し合えるクラスにしたい。

・先生の話のような男女の友情が育てられるとすてきだな。

5 実践者からの一言

・子どもたちは自分たちのクラスが楽しくて仲のよいクラスになることを望んでいる。お互いが信頼しあい協力するといろいろなことができ、思い出もたくさんできることに気づき、今では、何かあるたびに、声を掛け合いながらやり遂げる喜びを味わっている。

・学級活動では、本時に考えたことから学級の問題として、クラスの課題に目を向け、具体的な男女の強力について道徳での話合いをベースに考えることができた。

（高美が丘小学校 吉岡智世）